木材利用 井島建設に最優秀

出水市制施行50周年記念・16年度出水地区植樹

約500人が出席した植樹祭＝出水市の現地で

祭が20日、出水市東光山で関係者約500人が出席して開かれ、森林・林業功労者表彰や記念植樹等が行われた。

主催者を代表して、出水市長の渋谷俊彦出水地区森林・林業振興協議会長が挨拶。「地震や災害が世界各地で発生。改めて森林の果たす役割が着目されている。山は一度壊れると修復に100年かかるといわれる。30年、50年先を見据えて今、手をつけなければ安全は確保されない」と訴えた。

渋谷会長や東上床久司県出水農林水産事務所長から公共土木等木材利用工事コンクールなど各種表彰授与が行われた後、市制50周年を記念してソメイヨシノ665本を記念植樹した。同市は第28回全国植樹際・16年度ふれあいの森づくりで国土緑化推進機構理事長賞を受賞、同日伝達式も行われた。

関連受賞者は次の通り。

林道維持管理コンクー

「春日住宅」賃貸借契約調印式

県内初 借上型住宅完成

加治木町

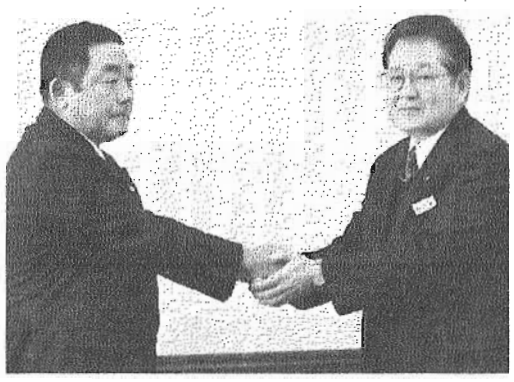
始良郡加治木町の借上型公営住宅「春日住宅」賃貸借契約調印式が21日、同町役場で行われ、川野威朗町長と施工した弓場建設㈱の弓場静昭社長が契約書に押印した。

立会人の有満達也弓場建設㈱常務と深浦卓二加治木町助役が確認し、契約が成立。川野町長と弓場社長は固い握手を交わした。

川野町長は「県下でも初の試みとなる借上型公営住宅春日住宅が、昨年9月の協定締結から5カ月という短期間に、優れた技術力により一切のトラブルもなく工期内に完成したことにお礼を申し上げたい」と挨拶。これに応えて弓場社長も感謝の言葉を述べた。

春日住宅は昭和41年から48年に建設され、老朽化が著しいことから建て替えが計画されたが、町財政がひっ迫していることから民間のノウハウと資金力の活用で建築費削減と施工期間短縮を図ろうと、PFI方式に準じた形で実施された。

同住宅は今後15年間、弓場建設㈱から町が借り上げ、家賃収入により建設費を賄う。借上期間終了と同時に寄付採納として町が受け入れ、引き続き町営住宅として管理する。町では建て替え前の住宅平均約33平方メ



固い握手を交わす川野町長（右）と弓場社長＝加治木町役場で

九州畳組合連合会青年部合同研修会鹿児島大会

畳の素晴らしさ発信

第5回九州畳組合連合会青年部合同研修会が19日、薩摩川内市の国際交流センターであり、各地から約230人が参加。「ひとりで出来ないことは、仲間があるさ」をテーマに意見交換をした。また、焼酎ブームの火付け役西川りゅうじん氏の特別講演もあった。

開催県を代表して柳田勝剛県畳工業組合青年部会長が挨拶。「畳業界も時代変革の波を受け、協調・協力の精神が失われようとしています。一人でできることには限界があります。多くの仲間とかと手を携え、九州から全国に畳の素晴らしさを発信したいと思います」と決意を述べた。

増田勇九州畳組合連合会理事長や月川昌七全日本畳事業協同組合理事長、保岡興治たたみ振興議員連盟会長もお祝いに駆け付けた。増田理事長は「各地域で仲間をつくり、その仲間と手をつなぎ、一緒に次の世代へとつないでいくことが畳業界の発展へとつながる。九州の畳組合は一つである」と青年部の活動にエールを送った。

県青年部会員が、自分たちの抱える課題や問題点等を寸劇で披露。西川氏は「今の焼酎ブームのように畳をブレイクさせるには、まず若い人たちが結束することが重要だ」と指摘。「世の中、健康・安全に関心が集まっているのだから、畳の効能を科学的に明確にすること。そのデータを自前でそろえ、君たち自身がセールスマンに徹することである」と話した。

夜は来賓らを囲んで薩摩川内市内のホテルオートリ（旧おおとり荘）で懇親会を開いた。

九州の畳組合は一つと呼び掛けた研修会＝薩摩川内市の国際交流センターで

技能グランプリ選手団激励会

原口さんら3人激励

3月11日から4日間の日程で千葉県の幕張メッセを中心に開かれる「第23回技能グランプリ」に出場する選手団（森山清隆団長）の激励会が21日、鹿児島市の県庁で開かれ、畳製作部門に出場する原口隆行さん（有原口畳店）ら3人（一級技能士）の健闘を祈った。

同競技会は、技能士の技能と地位向上及び技能尊重気運の醸成を目的に中央職業能力開発協会と全国技能士会の共催により昭和57年から実施。今回、原口さんのほか、和裁の部・高原美香さん（有高桑和裁技術センター）、フラワー装飾の部・迫章子さん（花曜日）が本県代表として出場する。

選手団の紹介の後、県商工観光労働部の原田耕蔵部長が「みなさんは、最高レベルのグランプリに出場することになる。自分の腕を信じ平常心で挑めば好成績が収められ、同時に業界の励みにもなる」と激励した。

これを受け、選手を代表して原口さんが「県民の期待に応えるためにも、悔いのないよう精一杯頑張ってきます」と決意を述べた。

決意を述べる原口さん＝鹿児島市の県庁で

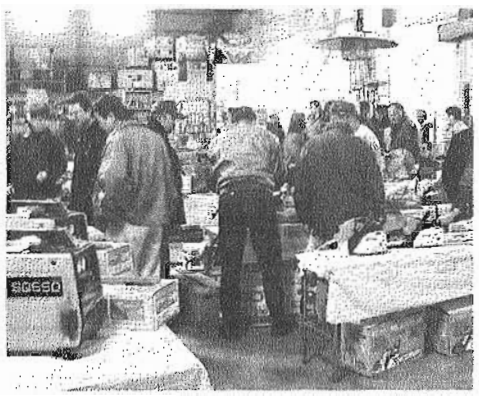
太田機工

中古機展示会が好調

廃プラ焼却炉にも注目

太田機工㈱（上山武俊社長、薩摩川内市）は20日、川内営業所の主催で中古機展示会を開催。開場前から好調な出足で、午前中だけで約150人の来場があった。

鶴屋重夫所長は「2、3月は開催するには厳しい時期だが、春の展示会の動向を予測するにはいい機会。予約もいただき、お客さんが何を求めているのかも知ることができました」と成果は上々のようだ。



来場者でにぎわった中古機展示会＝薩摩川内市の同社川内営業所で

取り替えていることを重ねるごとに、一般客の購買も増えていることから、後でクレームを受けるよりも、いいものを安く提供したい、そんな姿勢からだ。

人気を集めたのは発電機やチェーンソー、草刈り払い機など、いずれも市価の半値程度。また、同社が今年から本格販売に乗り出した「改正廃掃法」適合の廃プラ用焼却炉にも注目が集まった。

厳しい時期での開催だったが、まずは出足好調といったところ。

北薩造園業協会

県下駅伝 川薩地区監督の瀬口氏激励

横断幕やノボリで応援

北薩造園業協会（田中高徳会長）は、会員の瀬口俊二氏（瀬口造園有社長、薩摩川内市）が19日から始まった第52回県下一周市郡対抗駅伝競争の川薩チーム監督に初就任したことから、20日に薩摩川内市西方の国道3号女房川橋梁補修現場そばの駐車帯で「キバレ川薩チーム、頼むぞ瀬口監督」の横断幕と北薩造園協会ののぼりを掲げて激励した。

始良、曽於、日置に続いて川薩・甲斐選手の姿が見えるとひときわ大きな声援が。後続の監督車に乗る瀬口監督も窓から手を振り「ありがとうございます、がんばります」と応えていた。

川辺、肝属に遅れて鹿児島と出水が競い合うように通過。実は出水チームの奥平徳和監督は同社に勤務する間柄。応援にも熱が入った。21日にも薩摩郡宮之城町山崎の有えいしん緑化建設事務所前で応援に立った。2人の監督が率いる川薩・出水の最終成績が気になるところ。

駅伝選手を応援する会員ら＝薩摩川内市の現地で

建設業許可申請
変更届・資格審査申請・官公庁許認可
登録申請手続き致します
許認可コンサルタント
安田行政法務事務所
鹿児島市中央町5－41 TEL 252-8084
トーカンマンション白雲602号 FAX 252-1144